

アルメニア UWCディリジャン校 指岡 さん

留学期間：R1.8～R3.6（2年間）

私がアルメニアのUWCディリジャン校に留学して2年目を迎えました。昨年は新型コロナウイルスの流行の影響で早期帰国を余儀なくされ、2ヶ月間のオンライン授業と、3ヶ月間の夏季休暇を日本で過ごしました。そして8月ようやくアルメニアに帰国し、様々な制限がある中ではありますが、3学期を開始することができました。しかし、新型コロナウイルスだけにとどまらず、3学期開始直後にはアゼルバイジャンとの国境付近で戦争が勃発しました。普通では考えられないような留学の1学期間でしたが、その中で大きく成長できたのではないかと思います。

まず、この3学期は国際バカロレア資格取得を目指す者にとって最も忙しい時期と言われています。普段の授業やテストに加え、英語で4000語の論文を執筆したり、理数教科の自主研究をしたりなど大忙しでした。それだけでなく、アメリカの大学に出願を予定していた私は、大学ごとのエッセイも書かなければいけませんでした。これらは全て質を求められる大変なものばかりで、人生の中で学業面に最も時間を割いた4ヶ月だったのではないかと思います。ストレスも溜まる4ヶ月でしたが、これを乗り越えたことは自信につながったし、根気強さを鍛えてくれた意味のある4ヶ月間だったと思います。



UWC Dayの航空写真



グリーンプロジェクト

私が通う UWC は多国籍で特殊な学校であり、学業面のみではなく教室の外での活動等が重視される学校です。国内で戦争が起こったこともあり、学校をあげて戦争難民を支援する活動を行いました。ロックダウンの影響で学校の外に出ることは禁止されていましたが、できる限りのことをしようと、募金や衣服の寄付、炊き出し等を行いました。アルメニアでは高校卒業後の男子が全員徴兵されるため、同級生の友人たちが最前線で戦っていて、校内の雰囲気も異様なものでした。日本という平和な国の出身である自分にとって、滞在している国の中で戦争が起こっているということは現実味が無い経験であり、世界では実際に戦争が起こっているという現実と、全てを奪う戦争の残酷さを肌で体感できたと思います。

そんな異様な環境でしたが、学校内からはコロナ感染者も出ず、校内でできる課外活動は続けることができました。僕はサッカークラブのリーダーとして毎週の練習を計画したり、1・2年生対抗の試合を開催したりしました。初心者から上級者までが参加するクラブのため、誰もが楽しむことができるような雰囲気づくりを重視しました。色々な試合をしましたが、



寮対抗サッカー後の集合写真

中でも、学生寮を大きく2つに分けて行った寮対抗の試合は非常に白熱し、FIFA公認のサッカーフィールドとナイター設備というプロの試合のようなセッティングの力もあって、コロナと戦争で落ち込んでいた学校の雰囲気を変えることができました。

最後に、新型コロナウイルスがまだ猛威を奮うこのような厳しい状況の中でも海外で学び続けられることに感謝し、残り半年、何事も精一杯頑張っていきたいと思っております。引き続き応援のほどよろしくお願い致します。



秋の遠足で



東アジア・東南アジア・オセアニアの文化紹介イベント後の集合写真



寮の集合写真